

令和2年度 国立中央青少年交流の家

## 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

# オリエンテーション合宿 (take the first step)

令和2年7月23日(木)・24日(金)・25日(土) 0泊3日



### ○趣旨

地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、その解決に向けた体験活動を通して、問題を発見する力と、それを解決していく力を養い、よりよい社会づくりに向けて自ら一步を踏み出し、歩み続けることのできる人材を育成する。

### ○参加者

日本在住の高校生 25名

### ○事業の内容 11科目 22単位時間

#### (1) ガイダンス

国立中央青少年交流の家 次長 桑山 宗大



アイスブレイクによって仲間づくりを行った後、全国高校生体験活動顕彰制度とオリエンテーション合宿の説明を受けるとともに、探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだ。

#### (2) 講話「地域づくりの実践」

HINAP初代代表 加藤 淳菜 氏

講師が高校生の時に行った実践活動についての講話を聴くことにより、地域への関心を高め、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高めた。

#### (3) フィールドワーク①「地域の魅力を発見」

チームFRF代表 勝亦 健太 氏 有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏  
NPO法人みらい建設部事務局 宮坂 里司 氏

地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



#### (4) 講義・演習①「地域理解」

#### 講義・演習②「課題解決の基礎」

国立中央青少年交流の家 次長 桑山 宗大

講義・演習①では、グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深めた。

講義・演習②では、フィールドワーク①において一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイデアによる仮説(解決策)を立て、グループ全員で共有した。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討し、理解を深めた。

#### (5) フィールドワーク②「地域課題の探究」

チームFRF代表 勝亦 健太 氏 有限会社荒井友吉商店 荒井 仁 氏  
NPO法人みらい建設部事務局 宮坂 里司 氏

講義・演習②で立てた一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動(解決策)を探ったりした。

## (6) 講義・演習③「地域課題の探究」

### 発表①〔グループ発表〕

国立中央青少年交流の家 次長 桑山 宗大

講義・演習③では、フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索した。

発表①では、講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行った。その際、伝えたいことや構成を明確にするなどのプレゼンテーションの基本についても学んだ。

## (7) 講義・演習④「行動計画の基礎」

### 発表②〔個人発表〕

国立中央青少年交流の家 次長 桑山 宗大

講義・演習④では、オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成した。

発表②では、個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有した。



## (8) 実践活動のためのガイダンス

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職 市川 大

実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解するとともに、実践活動や探究アワードなど今後の日程や手順について説明を受けた。



### 《事後アンケートより》

#### 【『探究的な学び』に関する理解が深まった】 4段階評価で3以上 100%

- ・今まであまり探究することはなかったけど、この3日間で探究することをたくさん学べた。
- ・地域が抱えている問題を解決するための探究は難しかったけど、とても面白かった。
- ・地域にはそれぞれ問題点があり、改善しなければいけないと思った。
- ・地域の課題について、掘り下げて考える力を身に付けられた。
- ・わかりやすく指導してくれ、考える時間、発言する機会をたくさんもらえ、貴重な体験もたくさんあった。

#### 【「ぜひまた『探究』してみたい」と思えた】 4段階評価で3以上 100%

- ・自分たちで課題を解決するために考えることが楽しかったから。
- ・探究をするとメリットがたくさんあるからまたしてみたい！
- ・グループの話し合いは楽しいと思えたので、もう一度やってみたいと思った。
- ・私も自分の町を変えていきたいと思ったから。
- ・一回では解決しきれない問題がある。また探究してスキルを磨いていきたい。

### 《成果と課題》

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、開催日時やカリキュラムなどの変更を余儀なくされ、一時は個人参加型での開催が危ぶまれたが、学校や地域などの多くの方の理解と協力を得られ、8校25名の高校生が参加し、3日間を通して、互いに学び合う姿を多く見ることができた。
- 地域づくりに取り組む実践家の方に、魅力ある講話やフィールドワークを実施してもらえたおかげで、参加した高校生にとって、主体的・対話的で深い学びの機会を提供することができた。
- ともに学び合った参加者同士、そして地域づくりの実践家との間に繋がりを作ることができ、この後の活動に向けて協力し合える良い関係を築くことができた。
- 今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、フィールドワークの活動内容や活動時間が制限されてしまった。来年度は、その時の社会的な情勢を踏まえ、より魅力的な活動を模索していきたい。